

〔H25年度受講案内〕

1 級建築施工管理技術検定 受験対策講座



1. 検定試験と資格の意義

- (1) 1級建築施工管理技術検定試験は、建設業法に基づき、技術の向上を図ることを目的に、昭和59(1984)年度から実施されている国家試験である。〔検定試験の業務は(財)建設業振興基金が行っている。〕
- (2) この試験の合格者は、〔資料1〕の業種で、営業所に置く「専任技術者」、工事現場に置く「監理技術者」または「主任技術者」になることができる。また、経営事項審査の「技術力」項目で、〔資料1〕の業種において「1級技術者」として5点の基礎点が配点される。

〔資料1〕 〈1級建築施工管理技士が、営業所に置く専任技術者、監理技術者・主任技術者になれる業種〉

建築、大工、左官、とび・土工、石、屋根、タイル・れんが・ブロック、鋼構造物、鉄筋、板金、ガラス、塗装、防水、内装仕上、熱絶縁、建具の各工事業(16業種)

(参考) 専任技術者、監理技術者、主任技術者になれない業種 (12業種)

土木、電気、管、舗装、しゅんせつ、機械器具設置、電気通信、造園、さく井、水道施設、消防施設、清掃施設

2. 受験資格について

- (1) 学歴・資格によって受験に必要な実務経験年数に違いがある。
- (2) 実務経験年数には、1年以上の「指導監督的実務経験」が必要とされる。これは、主任技術者、工事主任などの立場で部下を指導監督し、施工管理に従事した経験のことである。
- (3) 学歴に関わらず必要な実務経験年数を満たせば、1級から直接受験できる。また、専任の主任技術者の実務経験が1年以上あれば、受験に必要な実務経験年数が短縮される。

〔資料2〕 〈学歴・資格と必要な実務経験年数〉

学歴又は資格	必要な実務経験年数	
	指定学科	指定学科以外
大学	3年以上	4年6ヶ月以上
短期大学、5年制高等専門学校	5年以上	7年6ヶ月以上
高等学校	10年以上〔8年以上〕	11年6ヶ月以上〔9年6ヶ月以上〕
その他	15年以上	
2級建築士試験合格者	5年以上	
2級建築施工管理技術検定合格者	5年以上〔3年以上〕	

2級建築施工管理	短期大学・5年制高等専門学校	—	9年以上〔7年以上〕
技術検定合格後5	高等学校	9年以上〔7年以上〕	10年6ヶ月以上〔8年6ヶ月以上〕
年未満で右の学歴 の者	その他	14年以上〔12年以上〕	

注1) 実務経験年数には、1年以上の指導監督の実務経験年数が必要。

注2) [] 内は専任の主任技術者としての実務経験を1年以上含む場合の、受験に必要な実務経験年数。

3. 検定試験の概要

(1) 2段階の試験

試験は、**学科試験**と**実地試験**の**2段階**で行われ、学科試験の合格者だけが実地試験を受験する。

ア. 学科試験は6月、実地試験は10月の日曜日に行われる。

イ. 実地試験で不合格の場合、**翌年だけは学科試験が免除**となり、実地試験のみを受験できる。

(2) 学科試験

① 試験科目は建築学等、施工管理法、法規となっている。**出題数の合計82問、解答数の合計は60問。**(出題分野の細目、出題数、解答数は4.(1)の出題概要を参照)

② 学科試験は、4つの選択肢の中から1つの正解を選択する四肢択一式の記号問題で、解答形式はマークシート方式。

(3) 実地試験

実地試験は、施工経験記述、施工計画、躯体関係、仕上関係、工程管理・品質管理と法規からの出題となっていて、記述式の必須問題である。(細目は5.(1)の出題概要を参照)

〔資料3〕

<試験等の日程>

① 受験申込期間…平成25年2月8日(金)～2月22日(金)

② 試験の実施日・合格発表日…学科試験 **6月9日(日)**

合格発表 **7月19日(金)**

実地試験 **10月20日(日)**

合格発表 **平成26年2月7日(金)**



(4) 試験地

試験地は、札幌・仙台・東京・新潟・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・那覇の10都市(平成21年度の場合)。受験者はその中から希望する試験地を選ぶことができる。

(5) 合格基準と合格率

①合格基準は、学科試験については公表されており、**解答数60問の60%、36問以上の正答が必要**である。

なお、実地試験の合格基準は公表されていない。

②過去8年の全国の合格率(%)は〔資料4〕のようになっている。学科試験は、平成19年以

降40%前後の合格率で推移していたが、平成24年は51.0%へ回復した。実地試験は、概ね35%前後で推移している。平成24年は3年続いた40%台から34.4%へ低下した。

〔資料4〕 <全国の合格率(%)>

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
学科試験	59.0	50.1	46.4	49.8	34.9	40.7	37.3	51.0
実地試験	25.3	28.1	34.1	35.0	41.1	47.0	40.4	34.4

4. 学科試験の出題

(1) 出題概要 注) 細目ごとの出題数は年によって若干異なります。表は平成23年度の場合。

[午前の部: 試験時間10:00~12:20]

(2時間20分)

区分	細分	細目	出題数	解答数	
建築学等	建築学	環境工学	3	15	12
		力学・一般構造	6		
		建築材料	6		
	共通	設備・外構・契約関係	5	5	
		施躯体工事	13	5	
工	仕上工事	12	5		
午前の部		小計	45	27	

[午後の部: 試験時間13:30~15:40]

(2時間10分)

区分	細目	出題数	解答数	
施工管理法	施工計画	7	25	25
	工程管理	4		
	品質管理	7		
	安全管理	7		
法規	建築基準法	3	12	8
	建設業法	3		
	労働基準法	1		
	労働安全衛生法	2		
	その他の法規	3		
午後の部		小計	37	33
午前・午後の部		合計	82	60

(2) 学科試験の特徴と対策

- ① 建築の専門分野よりも**施工管理法、法規の方の解答割合が高い**。解答数の合計60問のうち、専門分野の建築学等は27問で45%、これに対し、施工管理法・法規の解答数は33問で55%になっている。
- ② 少数の問題を除いて、**知識を問う問題が大半**。理解しているかどうか最大のポイントなので、繰り返し勉強することが絶対条件。特に、同じ分野からの出題頻度が少なく、より細部の事項まで出題されるため、過去問題で慣れておく必要がある。
- ③ **どんな分野に時間をかけて勉強すれば効率がよいかをつかむこと**。
 - ア. 「**建築学**」の環境工学、力学・一般構造は過去問題を徹底してこなす。理解は必要だが、内容面で大きな変化はない分野。
 - イ. 「**施工管理法**」もテキストでポイントをつかみ、問題を徹底してこなす。25問全問解答と、



量が多く、範囲も広いので、遅くとも試験2ヶ月前から集中して取り組みたい分野である。

ウ. 「法規」は建築基準法、建設業法、労働基準法、労働安全衛生法の4法で例年8～9問程度の出題数であるため、この4つの法規を中心に勉強したい。労働安全衛生法は安全管理の分野での出題も多い。その他の法規は、建設リサイクル法などの建設副産物関係や騒音・振動規制法等の環境対策関係の法令、都市計画法、宅地造成等規制法、消防法等の出題である。テキストでポイントを整理し、試験前の短期間で徹底したい。

エ. 「施工」の躯体工事、仕上工事は専門分野で出題範囲は広いが、解答数は各5問にすぎないので、受講者は自分の得意分野・専門分野を中心に勉強して、出題された中から正答できそうなものを選び出すようにしたい。

- ④ 当協会のテキスト・DVD・生講座で出題のポイントを把握して、目標としては70%以上の正答をめざし、本番直前まで真剣に勉強していきたい。

5. 実地試験の出題

(1) 出題概要

試験時間3時間（13:00～16:00）。全6問で、すべてを解答しなければならない。文章で記述したり、箇条書きでまとめたり、単に語句を答えたりと、解答形式はいろいろである。問題内容も、毎年、異なったものが出題される。



(2) 出題項目

問題 1 **施工経験記述問題**…受験者の施工経験の有無と施工管理能力や記述力をみるための問題で、〔工事概要〕と、与えられたテーマについて記述する〔設問1〕〔設問2〕からなっている。施工経験記述問題の実地問題に占める比重は大きいと考えられる。

〔工事概要〕

自分が経験した建築工事1つを選び、①工事名、②工事場所、③工事の内容（新築等の場合：建物用途、構造、階数、延べ面積又は施工数量、主な外部仕上げ、主要室の内部仕上げを記述。改修等の場合：建物用途、主な改修内容、施工数量又は建物規模を記述。）、④工期、⑤自分の立場、を記述する。

〔設問1〕〔設問2〕の近年の出題テーマ

平成24年

〔設問1〕

〔工事概要〕であげた工事において実施した、発生抑制、再使用、再生利用、熱回収、適正処分の建設副産物対策から異なる対策を3つ選び、それぞれ次の①から④について記述する。ただし、3つの記述の内容はそれぞれ異なるものとする。

- ①選んだ建設副産物対策
- ②工種名
- ③実施した内容

④結果と自分としての評価

〔設問2〕

〔工事概要〕 であげた工事にかかわらず、これまでの工事経験に照らして、地球環境保全のため建築工事現場でどのような**取り組み**を行うべきか、次の3つの環境問題から2つを選び、具体的に記述する。

〔環境問題〕

- ・地球温暖化
- ・熱帯雨林の減少
- ・水質汚染

平成23年

〔設問1〕

〔工事概要〕 であげた工事において、現場で重点をおいた**品質管理活動を2つ**あげ、それぞれ次の①から③について記述する。ただし、2つの記述の内容はそれぞれ異なるものとする。

- ①発注者からの要望や設計図書等で要求された品質を実現するため、現場で定めた施工に当たっての**品質の目標**。
- ②①の品質の目標を達成するため、定めた**重点品質管理項目と定めた理由及び工種名**。
- ③②の重点品質管理項目について、品質管理のため**実施した内容**。

〔設問2〕

〔工事概要〕 であげた工事にかかわらず、これまでの工事経験に照らして、次の①、②について簡潔に記述する。

- ①現場作業所で品質管理活動を組織的に行うには、**どのようにしたら良いと思うか**。
- ②クレーム等のない、顧客の信頼を得られる建物を提供することは、施工者にとって**どのような意味を持つと思うか**。

平成22年

〔設問1〕

〔工事概要〕 であげた工事において実施した**施工の合理化の事例を2つ**あげそれぞれに関し、①から④について具体的に記述する。

- ①工種、部位等
- ②実施した内容
- ③合理化となる理由
- ④品質が確保される理由

〔設問2〕

〔工事概要〕 であげた工事にかかわらず、これまでの工事経験に照らして、**品質を確保したうえで**行う次の①②について具体的に記述する。ただし、設問1の②実施した内容と重複してはならない。

- ①工期短縮に効果がある**施工の合理化の内容と工期短縮となる理由**

②省力化に効果がある施工の合理化の**内容**と省力化となる**理由**

平成21年

〔設問 1〕

〔工事概要〕 であげた工事において実施した発生抑制、再使用、再生利用、熱回収、適正処分の5つの**建設副産物対策**から、異なる対策を3つ選び記入の上、それぞれ①から③の事項について具体的に記述する。なお、一般廃棄物に関する記述は除く。

- ①扱った資材名又は建設副産物名
- ②実施した具体的内容
- ③結果と自分としての評価

〔設問 2〕

上記の工事に関わらず、自分の経験に照らして、地球温暖化対策として建築工事現場においてできる**二酸化炭素(CO₂)の排出抑制**のための具体的対策を4つ簡潔に記述する。ただし、対策は、それぞれ異なる内容の記述とする。

平成20年

〔設問 1〕

〔工事概要〕 であげた工事について、設計図書、施工図、施工要領書などから確認し、管理した**重要品質(建物の重要な性能)**を2つあげ、それぞれ①から③について具体的に記述する。但し、2つの重要品質に関する記述はそれぞれ異なるものとする。

- ①重要品質として取り上げた理由。
- ②その重要品質に関する品質管理活動を行うに際し、**定めた管理項目**とそれに関わる**工種名、管理項目を定めた理由**。
- ③管理項目をどのように管理したか。

〔設問 2〕

上記の工事に関わらず、自分の今日までの工事経験に照らして、①、②について簡潔に記述する。

- ①品質のよい建物を提供するためには、**どのような施工**を行うことが必要か。
- ②品質のよい建物を提供することは、**施工者にとってどのような意味**を持つか

平成19年

〔設問 1〕

〔工事概要〕 であげた工事において、**省力化や工期短縮**を図るため、施工方法の変更や使用材料の変更による**施工の合理化**について、現場で行った**事例**を3つあげ、それぞれ①から③について具体的に記述する。ただし、3つの事例において、②の実施した具体的内容は、それぞれ異なる記述とする。

- ①工種名、部位名等

- ②実施した具体的内容
- ③省力化や工期短縮となる理由

〔設問 2〕

自分の今日までの工事経験の内容にかかわらず、考えられる**施工の合理化**について、①と②について具体的に記述する。ただし、①の施工の合理化の具体的内容は、1. の②実施した具体的内容と重複しないこと。

- ①施工の合理化の具体的内容
- ②施工の合理化となる理由

平成18年

〔設問 1〕

〔工事概要〕 であげた工事において、現場で実施した重点的な**品質管理活動の事例**を3つあげ、それぞれ次の①から③について記述する。ただし、3つの事例は、それぞれ異なる記述とする。

①発注者側の要望

自分の立場で理解した**発注者側の要望**を簡潔に記述する。

なお、発注者側の要望には、設計者、監理者、元請、営業、上司等から聞いたことや、設計図書等から読み取った内容も含むものとする。

②重点的な品質管理活動

①の発注者側の要望に応えるため、自分が現場で重点的に実施した**品質管理活動の内容**を具体的に記述する。

なお、品質管理活動の内容には、部位、作業内容等を含む記述とする。

③理由や経緯

②の重点的な品質管理活動を①の発注者側の要望に、応えるものと**考えた理由や結びつけた経緯**を具体的に記述する。

〔設問 2〕

上記の工事に関わらず、自分の今日までの工事経験を踏まえて、品質に関する発注者側の要請や、それを実現するための現場の重点品質管理活動の内容を**協力業者に確実に伝達するため、その手段や方法**はどうあるべきか。現場作業所の活動と現場から社内関連部署への要請とに分けて、それぞれ具体的に記述する。なお、協力業者は、下請業者、取引業者、納入業者、専門工事業者などとする。

平成17年

〔設問 1〕

〔工事概要〕 であげた工事において、自分が実際に取り組んだ**建設副産物対策**に関して、次の①～③の事項について**3つ**、具体的に記述する。ただし、②の「取り組んだ対策とその具体的内容」は、それぞれ異なる内容の記述とする。また、一般廃棄物に関する記述は除く。

- ①扱った資材名又は建設副産物名
- ②取り組んだ対策とその具体的内容

③結果と自分としての評価

〔設問 2〕

上記の工事に関わらず、自分の工事経験に照らして、建築現場では環境問題においてどのような**環境負荷低減の取組み**を行うべきか、下記の5つの環境問題から**2つ**選び、具体的に記述する。ただし、取組みについては、それぞれ異なる内容の記述とする。

- ・地球温暖化
- ・熱帯林の減少
- ・大気汚染
- ・水質汚染
- ・資源の枯渇

問題 2 安全管理、施工計画、工程計画に関する設問

平成24年	移動式クレーン、移動式足場（ローリングタワー）、交流アーク溶接機について、作業開始前の 安全点検事項 をそれぞれ 2つ 具体的に記述する。ただし、保護帽、安全帯、保護具などの着用、資格及び免許に関する記述は除く。
平成23年	建築工事現場において、ゲート（作業出入り口）、外部足場、揚重機の仮設設備の 設置計画にあたり留意又は検討すべき事項 をそれぞれ 2つ 具体的に記述する。ただし、申請手続き、届出、保守点検に関する記録は除き、また、使用資材に不良品はないものとする。
平成22年	建築工事現場において、墜落災害、飛来・落下災害、崩壊・倒壊災害について、 発生のおそれのある作業や状況と災害を防止するための対策 を、それぞれ 2つ 、具体的に記述する。ただし、記述内容は重複せず、安全衛生管理組織及び新規入場者教育に関する記録は除く。
平成21年	仮設事務所、仮設電気設備、仮設道路について、現場内に 設置するにあたっての留意事項又は検討すべき事項 とその理由を簡潔に記述する。ただし、保守点検、安全に関する記述は除く。
平成20年	外部枠組み足場、建設用リフト、交流アーク溶接機について、 使用中の安全点検事項 （不安全行為対策等は除く）をそれぞれ 2つ 具体的に記述する。
平成19年	鋼板製仮囲い、乗入れ構台、傾斜ジブ式クライミングクレーンについて、倒壊、崩落を防止するために、 組立時に確認する項目と確認方法 を各々 2つ 具体的に記述する。

平成18年	墜落災害、重機関連災害、第三者災害について、 災害の具体例と、その災害を防止するための措置と留意事項を2つずつ具体的に記述する。
平成17年	ゲート（車両出入り口）、場内仮設道路、荷受け構台の設置にあたり、 施工計画上の留意事項または検討事項を2つ具体的に記述する。

問題 3 躯体工事に関する設問

平成24年	躯体工事に関する記述について、 下線を引いた語句の訂正問題
平成23年	場親杭横矢板工法における横矢板の設置、鉄筋工時におけるバーサポート又はスペーサーの設置、コンクリート工事におけるコールドジョイントの発生防止、鉄骨の建方における仮ボルトの締付けについて、 施工上の留意事項を2つずつ具体的に記述する。
平成22年	地業及び躯体工事に関する記述について、 下線を引いた語句の訂正問題
平成21年	場所打ちコンクリート杭工事の杭頭処理、柱又は梁型枠の加工・組立て、コンクリートのひび割れ防止のための打設方法又は養生方法、トルシア形高力ボルトの締め付けについて、 施工上の留意事項を2つずつ具体的に記述する。
平成20年	躯体工事に関する記述について、 下線を引いた語句の訂正問題
平成19年	鉄筋の組立て、型枠支保工の存置または取り外し、コンクリートの養生、鉄骨の建入れ直しについて、 施工上の留意事項を2つずつ具体的に記述する。
平成18年	躯体工事に関する記述について、 下線を引いた語句の訂正問題
平成17年	切梁のプレロード導入、オールケーシング工法の鉄筋かご共上りの防止、コンクリートのコールドジョイントの発生防止について 施工上の留意事項を2つずつ具体的に記述する。 トルシア型高力ボルトの本締め完了後の 目視確認事項を2つ記述する。

問題 4 仕上げ工事に関する設問

平成24年	2成分形変成シリコン系シーリング材の充填、陶磁器質タイルの密着張り、軽量鉄骨下地の取付け、ビニル床シートの平場部張り付けについて、 施工上
-------	--

	の留意事項を2つずつ具体的に記述する。
平成23年	仕上げ工事に関する記述について、下線を引いた語句の訂正問題
平成22年	アスファルト防水施工前のコンクリート下地面の状態や形状についての留意事項を2つ、グリッパー工法でのカーペット敷き、外壁への二丁掛けタイルの改良圧着張り、天井仕上げとしての石膏ボード張り下地へのロックウール化粧吸音板張り付けにおける施工上の留意事項を2つずつ具体的に記述する。
平成21年	仕上げ工事に関する記述について、下線を引いた語句の訂正問題
平成20年	アスファルトルーフィングの平場張り付け、フローリングの釘止め工法、内壁のモルタル3回塗り工法、アルミニウム製外部建具の取付けについて、施工上の留意事項を2つずつ具体的に記述する。
平成19年	仕上げ工事に関する記述について、下線を引いた語句の訂正問題
平成18年	屋上防水に用いる絶縁用シート、タイルの密着張り工法、せっこうボード直張り工法について、施工上の留意事項を2つずつ具体的に記述する。アルミサッシ枠の取付け精度の検査項目と計測方法を2つずつ具体的に記述する。
平成17年	仕上げ工事に関する記述について、下線を引いた語句の訂正問題

問題 5 工程管理に関する設問

平成24年	市街地での事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。床仕上げ張り作業について適当な工程となるよう、開始日と終了日を解答する。
平成23年	市街地での事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。外壁タイル張り作業について適当な工程となるよう、開始日と終了日を解答する。
平成22年	市街地での事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。外部建具取付作業について適当な工程となるよう、開始

	日と終了日を解答する。
平成21年	事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。外壁タイル下地モルタル塗りの作業について適当な工程となるよう、開始日と終了日を解答する。
平成20年	市街地での事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。PCカーテンウォール取付けの作業について適当な工程となるよう、開始日と終了日を解答する。
平成19年	市街地での事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。内装工事のビニル床シート張りの作業について適当な工程となるよう、開始日と終了日を解答する。
平成18年	市街地の事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。外壁タイル張りの作業について最早開始日および最遅終了日を解答する。
平成17年	市街地での事務所ビル建設工事におけるバーチャート式工程表が示され、空欄になっている作業名を記述。作業終了日が不適当な作業名を選び、適当な終了日に訂正する。外壁ALCパネル工事について適当な工程となるよう、開始日と終了日を解答する。

問題 6 法規に関する設問

※H16年～21年は建設業法、H22年からは建設業法と労働安全衛生法が出題されている。

平成24年	建業法（施工体系図より、施工体制台帳を作成しなければならない会社名、再下請負通知人に該当する会社名、主任技術者を置かなければならない会社名を解答する。）、安衛法（事業者等の責務）についての穴埋め問題
平成23年	建業法（付帯工事、現場代理人の選任等に関する通知）、安衛法（事業者等の責務）についての穴埋め問題
平成22年	建業法（下請負人の指導、施工体制台帳の作成）、安衛法（安全衛生教育）

	についての穴埋め問題
平成21年	施工体系図より、施工体制台帳を作成しなければならない会社名、再下請負通知人に該当する会社名を解答する。下請負人の変更請求、主任技術者・監理技術者の職務についての穴埋め問題
平成20年	現場代理人、請負契約、下請代金の支払いについての穴埋め問題
平成19年	下請代金の支払い、検査と引渡し、下請負人に対する特定建設業者の指導についての穴埋め問題
平成18年	施工体制台帳、主任技術者・監理技術者の職務についての穴埋め問題
平成17年	監理技術者を置かなければいけない工事を解答する。施工体制台帳の目的と記載事項2つを記述する。

(3) 実地試験の対策

学科試験の合格発表から実地試験まで**3ヶ月の期間**がある。その間に、準備を怠りなく行うことが合否を決定する。「**施工経験記述**」については、**かなり具体的な課題が出題される**。対策を記入する解答欄が数行程度なので、施工経験を生かして解答すること。他の問題については、各種工事の施工法の留意事項を整理し、過去問題に当たって、出題の仕方や傾向をつかんでおきたい。当協会では、実地試験受験者を対象にした「**実地試験受験対策講座**」を別途計画しているので、ぜひ活用してほしい。

